

おばちゃん通信

発行：おばたさおり



横須賀市の財政は・・・

9月定例議会では決算審査が行われました。令和元年度一般会計歳出は1,618億4,135万円となっており、前年度に対して28億213万円増となっています。義務的経費である扶助費(社会保障にかかるお金)は年々増加し、公債費は平成28年度以降増加しています。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響を強く受けています。財務部から、令和2年9月時点での令和2年度の財政見通しが出されました。当初予算との主な差異として、①市税・地方消費税交付金の減収 -11.8億円、②地方交付税・臨時財政対策債の減 -7.6億円、③減収補てん債(地方税の実際の収入額が基準財政収入額の算定による収入額を下回る見込みの場合、その減収を補うために発行される地方債)の新規借入 4.0億円。①～③を合わせて合計で15.4億円の減が見込まれます。

また自治体の貯金とも言える財政調整基金は、令和2年度9月時点で追加で1.7億円の取り崩し、新型コロナウイルス感染症緊急対策基金に20億円動かしているのが、当初予算時の想定より21.7億円減少しています。

令和2年度は消費増税の影響で市税等は増える見込みでしたが、新型コロナウイルスの影響により、減額補正となっています。財務部の想定では令和2年度当初予算時並みに歳入が戻るのは令和7年度以降と見込んでいます。歳出については高齢化が進展することで社会保障費が増加することに加え、しばらくは新型コロナウイルスの影響による経済状況悪化により、生活保護費が増える見込みとなっています。

今定例議会で財務部より令和3年度予算編成方針が出されました。すでに影響が出ている通り、横須賀市の財政状況は一層厳しくなる見通しです。財源確保のため、①徹底した内部管理経費の見直し、②公共施設の更新・再編に置ける中長期的な取り組みを示した「FM戦略プラン」等の着実な推進、③国や県などからの財源の確保、④決算ベースのタイトな予算編成を行っていく方針が示されています。

文化・芸術に関する事業について



令和元年度の芸術劇場管理事業として5億5343万572円、文化会館とはまゆう会館の管理事業として1億5888万6233円、芸術劇場・文化会館・はまゆう会館の設備更新費用として1億9988万6684円の決算額が示されました。

これらに対し、委員会の中では財政が厳しい状況の中で芸術劇場の指定管理料が下げられないのか、芸術・文化についての事業はあり方を考え直すべきではないか等の質疑がある一方で、芸術文化事業について市が行うことの意義やその評価の仕方について訴える委員もいました。

これらの質疑に対し文化スポーツ観光部は「どこに価値観、重きをおくか、芸術文化にかけるのか、そうでないのか。市全体のことであり、どういう市にしていきたいのかグランドデザインを描くことが必要」と答弁されました。

現在基本構想・基本計画策定特別委員会が設置されています。基本構想・基本計画では2030年を見据え、横須賀市の未来像と、それに向かって進むべき方向性が示されます。この委員会の中でも「どういったことに重きを置くか」という声は、議会としてあげていくことになると思います。

一般質問報告① 学童クラブ



問:現在、本市には 71 の民設の学童クラブと、逸見に昨年度開設された公設の学童クラブがある。公設学童クラブの評価は、今後の本市の放課後児童健全育成事業の方向性に大きく関わってくる。

逸見の公設学童クラブについて、一年間を終えた今、どのような分析結果だったのか。また、市長の評価について伺う。

答:現在検証していないが、利用者は定員 35 人に対し 18 人と徐々に増えている状況。また、運営事業者が行ったアンケート調査では、保護者の満足度は高いと聞いている。最終的には、運営委託が令和 3 年度までの契約となっていることから、3 年間のクラブの運営を通して評価を行いたい。

問:まだ評価していないということだが、まず一年間の分析を出すのか。

答(こども育成部長):コロナの影響が出ているので、そういう意味ではトータル3年間で評価をしたいと思っている。

問:市長は事業を始める際に「走りながら考える」と仰っていた。3年も待たずに実際どうだったのか、分析と市長の評価をいただきたいがいかか。

答:おっしゃるとおりで走りながら考えるので、少し分析しながら行いが、すぐどうのこうのではなく、もう少し長期スパンで、1年ごとには行ってみたい。

一般質問報告②総合相談について

問:過去に、総合相談窓口の設置について一般質問でも訴えてきた。今年4月、福祉の総合相談窓口として、ほっとかながオープンされた。どこに相談していいかわからない課題や複雑な課題を相談できるということで、市民にとってとても心強いものとして受け入れられたことかと思う。しかし、スタートしてみて、既に当初描いていた相談窓口の姿とは異なっているのではないかと懸念が生じている。複合課題を抱えて相談に行った方が断られたという現状を耳にした。

そこで、確認のために伺う。総合相談窓口は、高齢福祉、障害福祉、児童福祉、生活福祉など様々な複合課題を抱えた方を受け止めて、家族内で課題が高齢や障害など複数分野に及んでいた場合、家族を丸ごと受け止めて支援するような総合相談を行う場所であるという認識でよろしいか。

答:おっしゃるとおり家族を丸ごと受け止めて支援するのがほっとかんである。

問:総合相談の窓口の人材育成が大切。福祉の専門官を育成することも考えているのか。

答:複合的な課題が相談できなかった事例をあげていたが、要は人間力。議員が相談を受けたときのように、的確な指示をして、人間力、思いやりを持ってその人たちの相談に乗って、様々なことに振り分けたりできるという仕組みをつくっていききたい。

問:人に寄り添う姿勢は大切だが、ソーシャルワークのスキルも大切。専門分野の知識も必要。福祉部において人材育成のプランはあるのか。

答:福祉部ではそのようなプランを立てつつある。もう少し見守ってほしい。

よこすか未来会議が、第 15 回マニフェスト大賞優秀賞を受賞しました。政策形成の PDCA サイクルに基づき、会派マニフェストに沿った一般質問・代表質問の実施、マニフェストの進捗状況評価と公開、コロナ禍におけるオンラインを活用した市民の声を聴く取り組みなどを行っています。マニフェスト、進捗報告等はHPからご覧いただけます。



よこすか未来会議HP

おばたさおりプロフィール インターンにご興味ある方はお問い合わせください。またご意見・質問などは下記連絡先へ。
1985 年 10 月 3 日 生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA 政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015 年横須賀市議会議員選挙にて初当選。会派:よこすか未来会議
移動事務所:080-1161-4031 または info@obatasaoiri.com ※ホームページ・ブログもあります。